

今回は、「仕事の誤解」という小冊子からです。

×いつも全力投球では身体が持たないと思うのは誤解だ！

仕事の成果は、必ずしも一日単位で計れるものではない。

しかし、今日一日の仕事を振り返り、反省すべきことはなかったかどうかを考えることは大切である。営業部の売上げや訪問件数のように数字でつかめる場合もあるが、たとえ数字で表すことのできない仕事であっても、「自信をもって満足な仕事できた！」と言えるかどうかだ。

具体的には、「果たして自分が会社から与えられた仕事の場面で、時間や経費をムダにしたことはなかったか？」「利益に結びつく仕事の一部として、どれだけ自分の役割を果たせたか？」ということだ。もちろん自己満足では困るが、一日を謙虚に振り返って、あるいは一日の成果としては標準以上だったかどうかを、考える習慣を身に付けてほしい。

※ 甘えは許されない

体調が悪く仕事の能率が上がらない時などは、「こんな日もある」「カゼが流行っているから仕方がない」と考えがちだが、そんな甘えは許されない。なぜなら、会社は体調の悪いあなたを雇っているのではない。給与をもらっている以上、能率の良い仕事を維持することは、ビジネスでは常識である。言い換えると、体調を崩すのはあくまでも自己責任であり、それが原因で十分働けないのならば、厳しい言い方だが、その分はサービス残業で補うくらいの気構えをもって欲しい。

※ 恥ずかしい自分を知れ

上司や周囲の人は「あまり無理するなよ」と声をかけてくれるだろうが、本音を言えば、肝心なときに無理がきかないメンバーほど困ることはない。面と向かって言っては余計な角が立つから、まして、身体が正常でも「気分が乗らない」などと、メンタル面の不調を言い出して低い能率の言い訳にすることは、わがままそのもの。恥ずかしい自分に気づくことだ。

() を埋めてください。

- 1) たとえ数字で表すことのできない仕事であっても、()
と言えるかどうかだ。
- 2) 体調を崩すのはあくまでも () であり、それが原因で十分働けないのならば、厳しい言い方だが、その分は () の気構えをもって欲しい。
- 3) あえて () と言っているのである。そのニュアンスがわからない人は、() に多い。